

平成20年度全国学力・学習状況調査
調査結果報告書（北海道）

北海道教育委員会
平成20年11月

はじめに

昨年に引き続き、平成20年4月22日(火)に平成20年度全国学力・学習状況調査が実施され、その結果が8月29日に国から公表されたところです。

北海道教育委員会は、北海道検証改善委員会が作成した「北海道学校改善支援プラン」を昨年1月に発表し、教育委員会や学校が本プランを支える3つの柱を踏まえて、学校改善を図る検証改善サイクルの確立を促してきたところです。

今年度の調査結果については、昨年度の調査結果と比較できるものについては、その状況も掲載するなど、2年間の学習状況等について観点を設けて分析したところです。

また、「北海道学校改善支援プラン」で示した3つの柱にかかわって、さらに重点的に取り組む必要がある内容にかかわって、具体方策や取組の参考例等を示しました。

各市町村教育委員会や各学校等におかれましては、本報告書を活用して、自校の調査結果について改めて分析をしたり、示された取組の方向性をもとに自校の特色ある取組を展開したりするなど、北海道の子どもたちの確かな学びを実現する教育活動を推進されるようお願いします。

平成20年度全国学力・学習状況調査 調査結果報告書(北海道)目次

(調査から見られる本道の姿)	第2章の一部を掲載し、概要として示しています。...	3
第1章 「北海道学校改善支援プラン」に基づく学校改善の充実	...	1 3
1 「北海道学校改善支援プラン」を支える3つの柱の検証	...	1 5
① 主体的に学び、学ぶ意義や価値を理解する	...	1 6
② 基礎・基本を確実に習得する	...	2 2
③ 日常生活を充実する	...	2 8
2 学校が独自に作成する学校改善プランの見直しについて	...	3 3
第2章 「平成20年度全国学力・学習状況調査」調査結果から見られる学習状況等	...	3 7
調査の概要		
1 調査目的	...	3 9
2 参加状況	...	3 9
教科に関する調査の結果から見られる学習状況等		
1 小学校国語	...	4 2
2 小学校算数	...	5 9
3 中学校国語	...	7 7
4 中学校数学	...	9 5
児童生徒質問紙の回答状況	...	1 2 0
学校質問紙の回答状況	...	1 4 6
「北海道教育推進計画」に設けられた目標指標の達成状況	...	1 5 6
各管内(公立)の状況	...	1 5 9
参考資料	...	2 8 7

調査結果から見られる本道の姿

平成20年度全国学力・学習状況調査の調査結果の一部を抜き出して示し、本道の調査結果についての概要を示します。

児童生徒の姿

《調査対象教科の平均正答率等》

- 【国語】
- ・ A（知識）、B（活用）とも全国と比べて平均正答率がやや低く、A（知識）に比べB（活用）に関する問題の平均正答率が低い。
 - ・ 標準化得点による年度間の相対的な比較においては、昨年度とほぼ同様の傾向が見られる。

〔教科に関する調査における平均正答率〕 単位（％）

平均正答率		小学校国語				中学校国語			
		A （知識）	標準化 得点	B （活用）	標準化 得点	A （知識）	標準化 得点	B （活用）	標準化 得点
H20	北海道（公立）	60.5	98	46.4	98	72.7	99	59.0	99
	全国（公立）	65.4		50.5		73.6		60.8	
H19	北海道（公立）	79.4	99	58.0	98	80.5	99	70.0	99
	全国（公立）	81.7		62.0		81.6		72.0	

- 【算数・数学】
- ・ 小学校B（活用）及び中学校A（知識）、B（活用）は全国と比べて平均正答率がやや低く、小学校A（知識）は低い傾向があり、A（知識）に比べB（活用）に関する問題の平均正答率が低い。
 - ・ 標準化得点による年度間の相対的な比較においては、昨年度と同様の傾向が見られる。

〔教科に関する調査における平均正答率〕 単位（％）

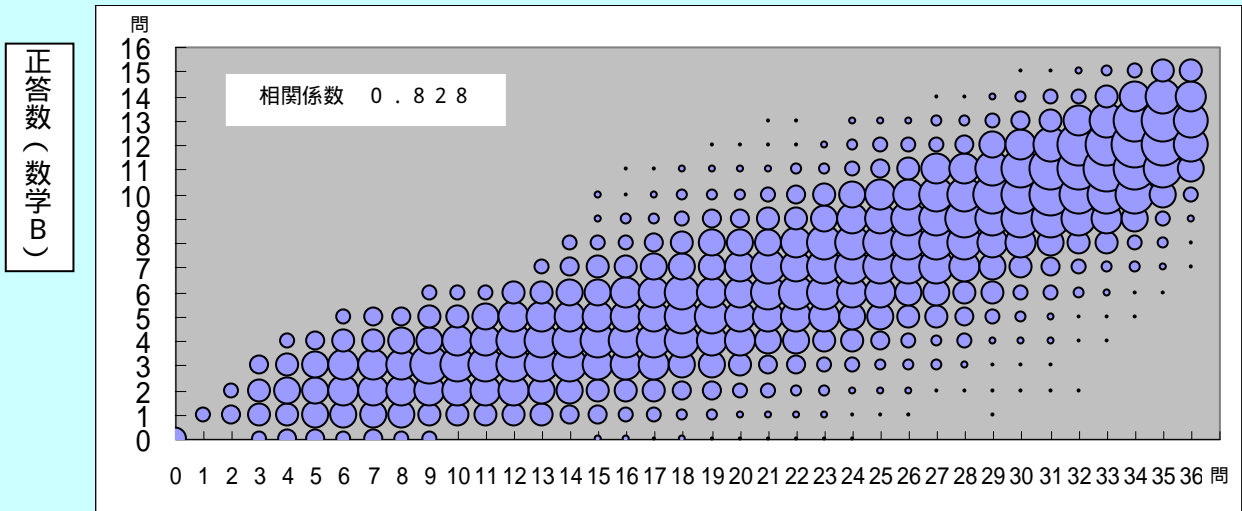
平均正答率		小学校算数				中学校数学			
		A （知識）	標準化 得点	B （活用）	標準化 得点	A （知識）	標準化 得点	B （活用）	標準化 得点
H20	北海道（公立）	66.4	97	47.7	98	60.3	99	45.9	99
	全国（公立）	72.2		51.6		63.1		49.2	
H19	北海道（公立）	76.8	97	58.6	98	68.6	99	57.6	99
	全国（公立）	82.1		63.6		71.9		60.6	

標準化得点：平成20年度調査と平成19年度調査の調査問題は異なり、年度間の平均正答率による単純な比較ができないことから、平成20年度及び平成19年度の全国（国・公・私）の平均正答数をそれぞれ100となるよう標準化した得点です。

【A（知識）とB（活用）の相関】

- ・国語、算数・数学とも、A（知識）の正答数が多い児童生徒は、B（活用）の正答数も多い。

〔中学校数学 A と数学 B の相関 バブルチャート〕



正答数（数学 A）

- ・ 数学 A の正答数が多い生徒は、数学 B の正答数も多く、数学 A の正答数が少ない生徒は数学 B の正答数も少ない傾向が見られる。

バブルチャート：A問題の正答数を横軸、B問題の正答数を縦軸にして、全ての児童生徒を座標に位置付けた図表。円が大きいほど、そこに入る児童生徒数が大きくなります。

相関係数：2つの変数間の関係の程度を1つの数値で表す指標。1に近いほど正の相関（A問題の正答数が多い児童生徒はB問題の正答数も多いなど）、-1に近いほど負の相関が強いことを表します。

《地域規模と学力》

道の平均正答率と比較して、大都市の中学校国語 B、数学 A、B にやや高い傾向が見られ、町村及びへき地の小学校国語 B、へき地の小学校算数 B、町村及びへき地の中学校の数学 A にやや低い傾向が見られ、その他はほぼ同様の傾向である。

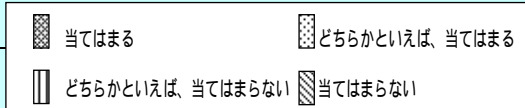
〔地域規模別の平均正答率〕

単位（％）

地域規模	年度	小学校国語		小学校算数		中学校国語		中学校数学	
		A （知識）	B （活用）	A （知識）	B （活用）	A （知識）	B （活用）	A （知識）	B （活用）
大都市・中核市	H20	62.7	49.0	68.7	50.4	74.6	62.0	64.1	49.1
	H19	80.7	61.3	78.9	61.1	82.0	72.1	71.7	60.7
その他の市	H20	59.2	44.8	65.1	45.9	71.3	56.7	58.0	43.5
	H19	78.5	57.2	75.2	57.3	79.5	67.8	68.1	57.1
町村	H20	57.8	43.3	64.0	44.9	71.4	57.0	56.8	43.8
	H19	78.0	56.9	75.1	56.4	79.2	67.6	67.2	56.4
へき地	H20	57.8	43.1	63.8	44.4	71.1	56.2	56.2	43.1
	H19	77.7	56.8	74.6	56.2	78.9	67.3	67.0	55.8
北海道（公立）	H20	60.5	46.4	66.4	47.7	72.7	59.0	60.3	45.9
	H19	79.4	57.8	76.8	58.8	80.5	69.6	68.7	57.6

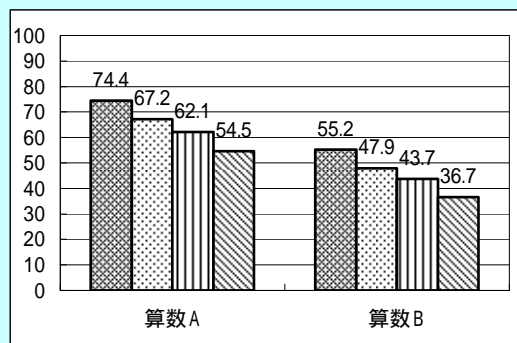
《学習意欲と学力》

国語、算数・数学の勉強が、好きな児童生徒、大切、役に立つと思う児童生徒の方が、平均正答率が高いなど、学習意欲と学力の関係は、昨年度と同様の傾向が見られる。



〔例〕質問61：算数の勉強は好きだ
 当てはまると回答した児童の平均正答率がA（知識）で74.4%、当てはまらな
 いと回答した児童の平均正答率が54.5%
 となっている。

【小学校】



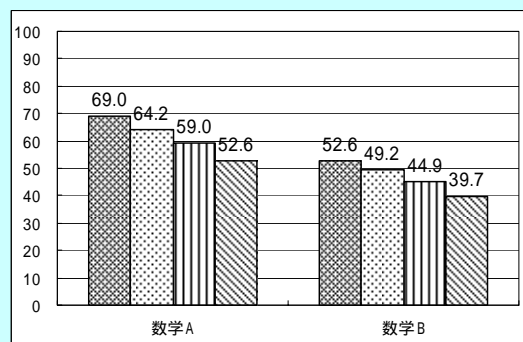
《学習習慣・生活習慣と学力》

予習や復習、宿題など、家庭での学習に取り
組んでいる児童生徒の方が、平均正答率が高い
など、家庭における学習習慣と学力の関係は、
昨年度と同様の傾向が見られる。

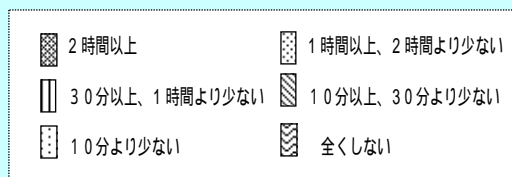


〔例〕質問28：家で学校の授業の復習
 をしていますか
 していると回答した生徒の平均正答
 率がA（知識）で69.0%、全くしていな
 いと回答した生徒の平均正答率が52.
 6%となっている。

【中学校】

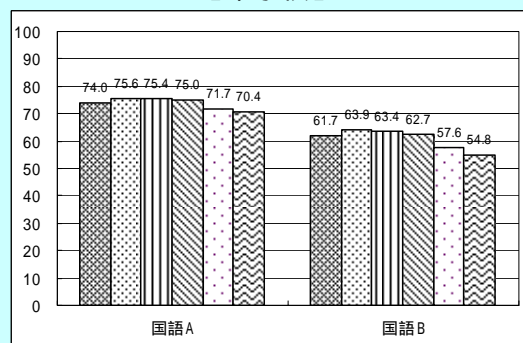


読書が好きで1日に10分以上読書をする児童
生徒の方が、国語と算数・数学の平均正答率がや
や高く、読書をする習慣と学力の関係は、昨年度
と同様の傾向が見られる。



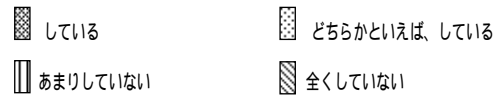
〔例〕質問18：家や図書館で、普段（月
 ～金）、1日にどれくら
 いの時間、読書をしませ
 か
 10分以上の範囲で回答した生徒の平
 均正答率がやや高く、1時間以上2時間
 より少ない生徒の平均正答率が、B（活
 用）で、63.9%、全くしないと回答した
 生徒の平均正答率が54.8%となってい
 る。

【中学校】

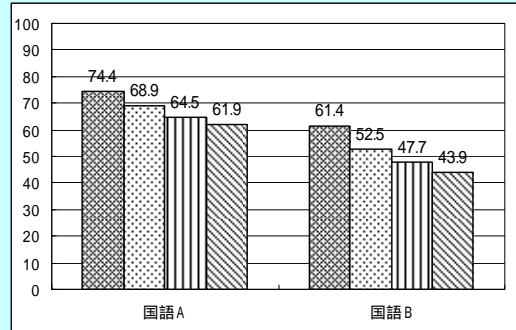


朝食を毎日食べている、起床時刻や就寝時刻等を決めている、栽培や調理などの体験をしている児童生徒の方が、平均正答率がやや高く、基本的な生活習慣や体験活動と学力の関係は、昨年度と同様の傾向が見られる。

〔例〕質問1：朝食を毎日食べていますか
毎日食べていると回答した生徒の平均正答率がA（知識）で74.4%、全く食べていないと回答した生徒の平均正答率が61.9%となっている。



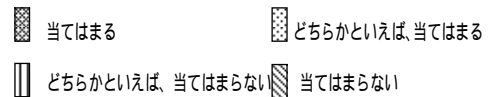
【中学校】



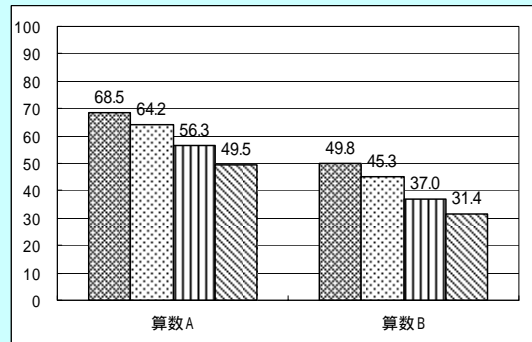
《豊かな心と学力》

物事を最後までやりとげとげうれしいと感じたことのある児童生徒の方が、平均正答率が高く、あきらめずに達成しようとする気持ちと学力の関係は、昨年度と同様の傾向が見られる。

〔例〕質問5：物事を最後までやりとげ
とげうれしかったことがありますか
当てはまると回答した児童の平均正答率がA（知識）で68.5%、当てはまらないと回答した児童の平均正答率が49.5%となっている。

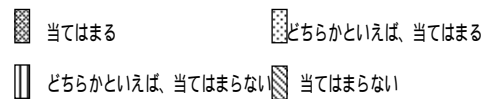


【小学校】

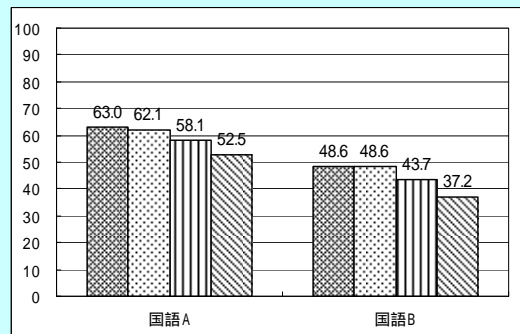


自分のよさに気付いている児童生徒、希望や目標を抱いている児童生徒の方が、平均正答率がやや高く、自分を高めようとするなどの気持ちと学力の関係は、昨年度と同様の傾向が見られる。

〔例〕質問7：自分には、よいところがあると思いますか
当てはまると回答した児童の平均正答率がA（知識）で63.0%、当てはまらないと回答した児童の平均正答率が52.5%となっている。

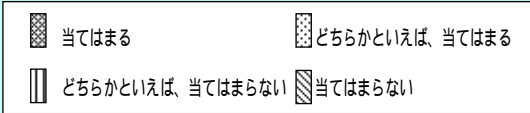


【小学校】

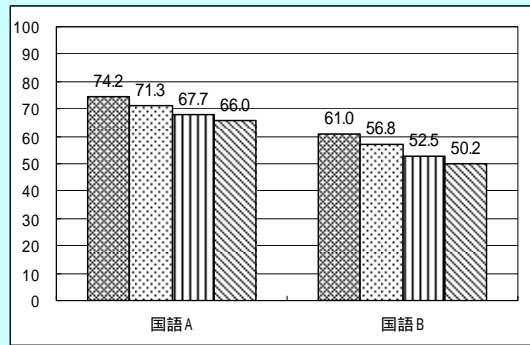


人の気持ちがわかる人間になりたいと思う児童生徒、人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の方が、平均正答率が高く、よりよく人とかかわろうとする気持ちと学力の関係は、昨年度と同様の傾向が見られる。

〔例〕質問38：人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか
 当てはまると回答した生徒の平均正答率がA（知識）で74.2%、当てはまらなと回答した生徒の平均正答率が66.0%となっている。

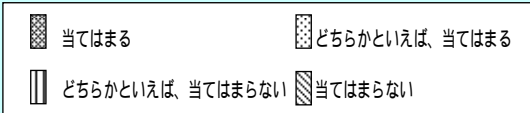


【中学校】

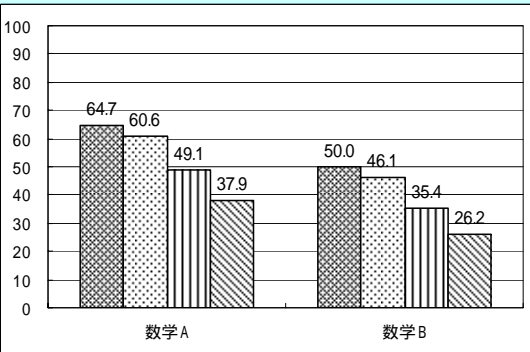


学校のきまりや規則を守っている児童生徒の方が、平均正答率が高く、規範意識と学力の関係は、昨年度と同様の傾向が見られる。

〔例〕質問34：学校の規則を守っていますか
 当てはまると回答した生徒の平均正答率がA（知識）で64.7%、当てはまらなと回答した生徒の平均正答率が37.9%となっている。

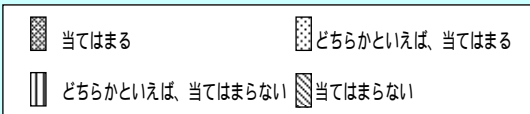


【中学校】

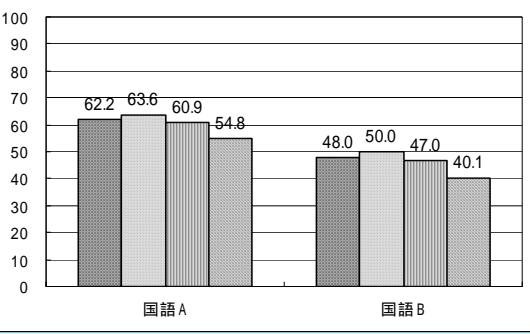


地域の行事に参加している児童生徒の方が、平均正答率が高く、地域とのかかわりと学力の関係は、昨年度と同様の傾向が見られる。

〔例〕質問33：今住んでいる地域の行事に参加していますか
 どちらかといえば当てはまると回答した児童の平均正答率がA（知識）で63.6%、当てはまらなと回答した児童の平均正答率が54.8%となっている。



【小学校】



《学校の状況》

各学校の状況については、昨年度との比較において全道の平均正答率からのちらばり具合を表す標準偏差を見ると、小学校国語Aで大きくなっている。全体としては、昨年度と同様の傾向が見られる。

問題	年度	A問題				B問題			
		学校の平均正答数の北海道平均(問)	学校の平均正答率の北海道平均(%)	学校の平均正答率の中央値(%)	標準偏差	学校の平均正答数の北海道平均(問)	学校の平均正答率の北海道平均(%)	学校の平均正答率の中央値(%)	標準偏差
小国	H20	10.8	59.9	60.0	10.5	5.5	45.7	45.3	11.5
	H19	14.2	78.7	79.4	7.3	5.7	56.7	57.1	12.1
小算	H20	12.6	66.1	66.5	9.7	6.1	47.1	46.7	10.3
	H19	14.5	76.5	77.0	9.3	8.1	57.7	57.9	9.8
中国	H20	24.5	72.1	72.7	7.4	5.8	58.3	58.6	9.8
	H19	29.6	80.1	80.5	5.8	6.9	69.3	70.0	9.8
中数	H20	21.3	59.2	59.5	10.8	6.8	45.2	45.1	9.4
	H19	24.4	67.8	68.3	10.0	9.7	56.9	57.3	9.6

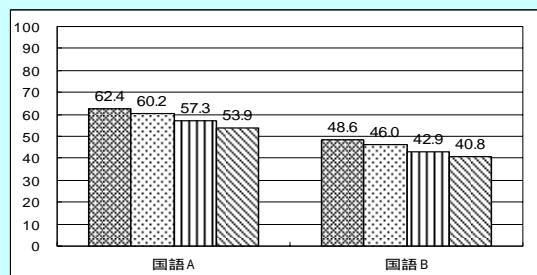
《学習習慣と学力》

児童生徒は授業中の私語が少なく、落ち着いていると思っている学校の方が、平均正答率が高く、学習習慣と学力の関係は、昨年度と同様の傾向が見られる。

- そのとおりだと思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

〔例〕質問12：児童は授業中の私語が少なく落ち着いている
 そのとおりだと思うと回答した学校の児童の平均正答率がA（知識）で62.4%、
 そう思わないと回答した学校の児童の平均正答率が53.9%となっている。

【小学校】



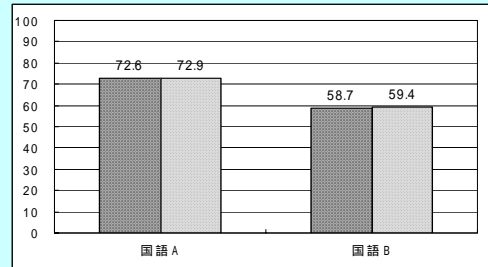
「『朝の読書』などの一斉読書の時間を設けている」という項目と平均正答率については、強い相関が見られないものの、1日に10分以上読書をする児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

〔例〕学校質問紙 質問21：「『朝の読書』などの一斉読書の時間を設けている」において、設けていると回答した学校の生徒の平均正答率がB（活用）で58.7%、設けていないと回答した学校の生徒の平均正答率が59.4%となっているが、

〔例〕生徒質問紙 質問18：「家や図書館で、普段（月～金）、1日にどれくらいの時間、読書をしますか」において、1時間以上2時間より少ないと回答した生徒の平均正答率がB（活用）で63.9%、全くしないと回答した生徒の平均正答率が54.8%となっている。

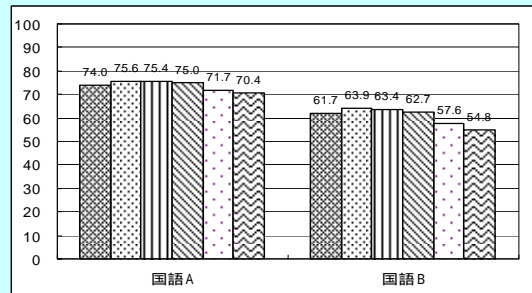
設けている 設けていない

【中学校】



2時間以上 1時間以上、2時間より少ない
30分以上、1時間より少ない 10分以上、30分より少ない
10分より少ない 全くしない

【中学校】



《学習意欲と学力》

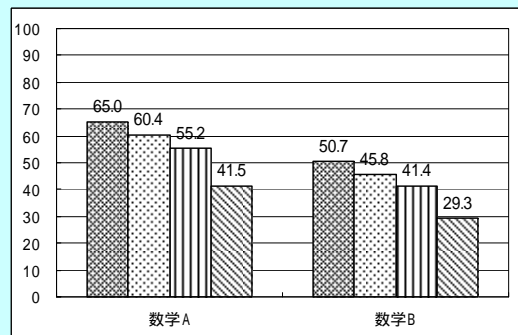
児童生徒が熱意をもって勉強していると思っている学校の方が、平均正答率が高く、学習意欲と学力の関係は、昨年度と同様の傾向が見られる。

〔例〕質問11：生徒は熱意をもって勉強している

そのとおりだと思うと回答した学校の生徒の平均正答率がA（知識）で65.0%、そう思わないと回答した学校の生徒の平均正答率が41.5%となっている。

そのとおりだと思う どちらかといえばそう思う
どちらかといえばそう思わない そう思わない

【中学校】



「家庭学習の課題（宿題）を与えている」という項目と、平均正答率については、強い相関が見られないものの、家で宿題をしている児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

〔例〕学校質問紙 質問76：「家庭学習の課題（宿題）を与えている」において、よく行ったと回答した学校の生徒の平均正答率がA(知識)で73.6%、全く行っていないと回答した学校の生徒の平均正答率が71.2%となっているが、

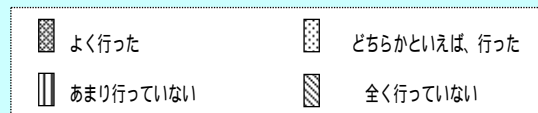
〔例〕生徒質問紙 質問26：「家で学校の宿題をしていますか」において、していると回答した生徒の平均正答率がA(知識)で76.5%、全くしていないと回答した生徒の平均正答率が62.3%となっている。

《指導方法・指導体制と学力》

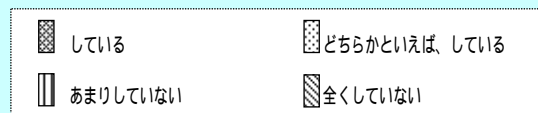
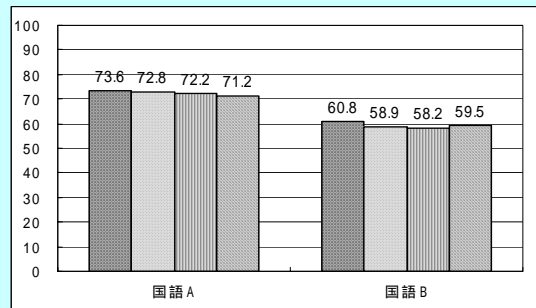
発展的な学習を行っている学校の方が、平均正答率がやや高く、個に応じた指導の充実と学力の関係は、昨年度と同様の傾向が見られる。

〔例〕質問58：発展的な学習の指導を行っている

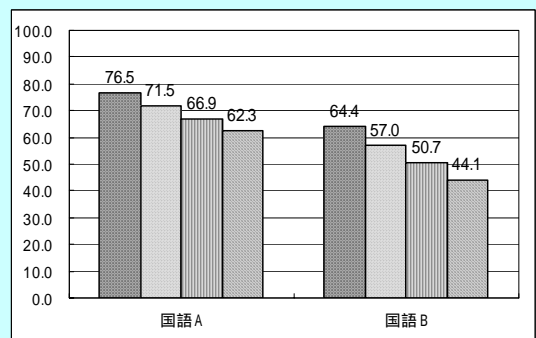
よく行ったと回答した学校の生徒の平均正答率がB(活用)で50.0%、全く行っていないと回答した学校の生徒の平均正答率が46.0%となっている。



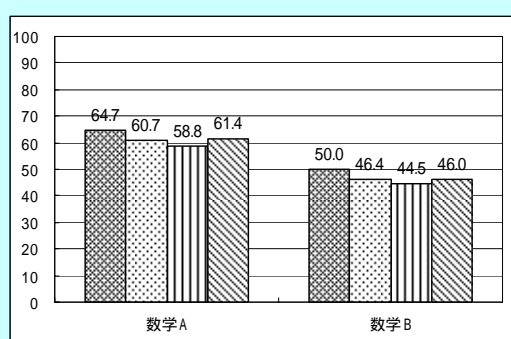
【中学校】



【中学校】



【中学校】



「実生活における事象との関連を図った授業」という項目と平均正答率については、強い相関が見られないものの、算数・数学で学習したことを生活の中で活用できないかと考える児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

〔例〕学校質問紙 質問60：「実生活における授業との関連を図った指導を行っている」において、よく行ったと回答した学校の児童の平均正答率がA（知識）で67.6%、全く行っていないと回答した学校の児童の平均正答率が64.6%となっているが、
〔例〕児童質問紙 質問66：「算数で学習したことを生活の中で活用できないかと考える」において、当てはまると回答した児童の平均正答率が、A（知識）で71.5%、当てはまらないと回答した児童の平均正答率が57.1%となっている。

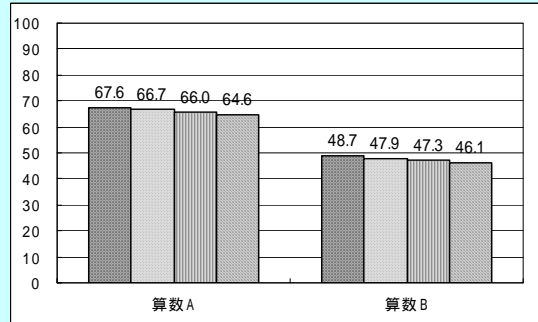
《豊かな心と学力》

児童生徒が礼儀正しいと思っている学校の方が、平均正答率が高く、豊かな心と学力の関係は、昨年度と同様の傾向が見られる。

〔例〕質問13：児童は礼儀正しい
そのとおりだと思うと回答した学校の児童の平均正答率がB（活用）で49.3%、そう思わないと回答した学校の児童の平均正答率が36.5%となっている。

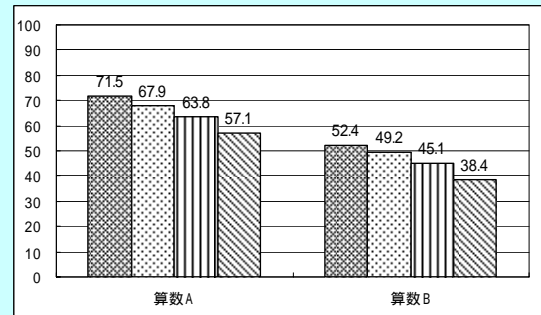
よく行った どちらかといえば、行った
あまり行っていない 全く行っていない

【小学校】



当てはまる どちらかといえば、当てはまる
どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない

【小学校】



そのとおりだと思う どちらかといえばそう思う
どちらかといえばそう思わない そう思わない

【小学校】

